

出雲の山城登山

藤井 諭

出雲の山城のハイキングを楽しんでいる。MHCの定例ではランクCの山行がほとんどで、登山者には物足りない山かも知れない。山城は戦国時代に作られた史跡であり、戦の様子を想像してゆっくり立ち止まりながら登るのが良い。登山は普通ひたすら頂上を目指して登るが、山城登山はそれとは違い立ち止まって想像しながら楽しむ登山である。この1年間行った山城登山の魅力を紹介しお勧めしたい。

瀬戸山城跡

昨年10月20日に「出雲の山々」の調査を兼ねて登った。飯南町下赤名にあり街の背後に聳える標高683mの山に、赤穴氏が瀬戸山城を築いた。山頂部の主郭を中心に周囲を13の郭で固め、鉄壁の守りを作った。



主郭からは赤名の街を一望に見下ろし(写真)三瓶山、大江高山、女亀山など眺望は抜群だ。赤穴氏は尼子側に付いたため毛利軍の攻撃を受ける。毛利は尾根続きでより標高の高い武名ヶ平山(724m)に山城を築き攻めたため、瀬戸山城はついに落城した。以後、瀬戸山城は毛利の出雲侵攻の拠点として重要となった。

登山口の駐車場は赤名小学校体育館の上にある。山頂まで約30分、途中に稲荷神社がある。瀬戸山から武名ヶ平山まで約30分の山道があるが展望はほとんどない。三角点までの途中に、毛利の築いたいくつかの廓や堀が認められた。

高瀬山

6月1日単独。高瀬山(316m)は山全体が城郭である。広大な城郭であり、出雲を治める塩冶氏に尼子興久が入り強力な山城になったと伝えられる。その後は米原氏が城主となり毛利の傘下となったが、尼子勝久の復興戦では尼子方へ変わった。最後は毛利の兵糧攻めで落城している。

急坂の七曲りを登ると平坦地となり、二の丸へ行く標識がある。今回は初めてヤブの中の二の丸(写真)に挑むことにした。派生する尾根沿いにヤブを漕ぎ、ふみ跡を頼りに迷いながら約10分進むと、小高瀬山へたどりついた。木に囲まれた二の丸の郭はかなり広い平地で、3段の土塁で守られ高瀬城の中心であったことが分かる。



本道に戻って山頂に向け登ると、途中には敵の攻めにくい痩せ尾根、鉄砲立や石垣跡があり、強力な山城だったことが伺える。山頂まで歩いて約50分、出雲北山と簸川平野が広がる展望の良い山だ。山頂の郭は狭いため砦に使い、主郭は小高瀬の二の丸にあったと考えられる。

三刀屋城跡

6月1日単独。三刀屋は出雲の国のほぼ中心に位置し交通の要衝だった。そのため尼子と毛利の取り合いの地でもあった。三刀屋氏によって築かれた城は東西450m、南北260m、標高130mの大きな山城だった。本丸、二の丸の他に南郭、西郭、4郭、大門郭など多くの郭で守られている。また中心部が石垣で築かれているのも特徴だ。



中腹の伝馬舎郭は広々とし、沢山の軍馬が準備されていたと考えられる。山頂からは三刀屋の街を一望でき**(写真)**、三刀屋川を挟んで中心街が望める。堀尾吉晴が月山富田城に入城した時、三刀屋城、瀬戸山城、

三沢城の3城が支城として石垣作りの近代的な城郭に改修された。三刀屋城は出雲を治めるに重要な地だったのだ。

車で本丸近くまで登れるが道路が細く、途中の馬場跡の広場に止めて歩いたほうが無難である。急坂を登り約10分で山頂の本丸がある。その奥の二の丸には城山稲荷神社があり赤く目立っている。本丸には天守台があるが今はサイレン塔になっている。ベンチで昼食を摂っていたら、12時丁度に突然、ウー~~~~~！と耳を劈(つんざ)く大音響にビックリ仰天！お昼時間にはくれぐれもご注意を。

三沢要害山

三沢要害山

6月1日単独。三沢城(みざわじょう)は三沢要害山(418m)にあり、周囲にこれより高い山はなく鉄壁の守りを誇った。三沢氏は鉄の生産と流通で出雲最大の国人として栄えた。三沢城は巨大な城であり、山頂部に広大な主郭と副郭がある。山腹の土塁やいくつもの郭に固められて強固な防護がされている**(写真パネル)**。山頂の主郭からの展望はすばらしく、大万木山、鯛ノ巣山、吾妻山、道後山と船通山が一望である。副郭も広く主郭を望むことができ井戸跡もある。城郭内にある三沢池(みざわいけ)には、若返りの霊水が滾々と湧き出ているので是非飲んで帰りたい。



三沢要害山は JR 三成駅から近い。国道から三沢町に入り「みざわ館」の案内板に従って車で登る。登山口の下段に10台ほどの駐車場がある。「みざわ館」脇の登山口にはトイレがあり杖が用意されている。山頂まではゆっくり歩いて約30分、展望所には亀そっくりの亀石がある。途中に見どころの副郭と三沢池があり、是非立ち寄っておきたい。

今回は真山・白鹿山、勝山城跡・京羅木山、和久羅山と熊野要害山の記録を紹介したい。**(つづく)**